

博士132人を送り出し、教員ひとり当たりの論文の数がエジプト第1位になるなど急速に研究水準を高めている。日本の複数の大学が国内支援大学となり、教員や学生の交流が行われている。2年前には大学院に続き学部も創設され、留学生の受け入れも増えている。

もうひとつ、STI分野で日本が協力している大学が、2010年に新設されたエジプト日本科学技術大学(EJUST)だ。エジプトにはカイロ大学という学生数約26万人、教員数約1万人というマンモス大学がある。あまりにも巨大で、教員ひとりに対する学生数は30人強。そのため授業は座学が中心で、教員の研究時間もとれない。そこで少人数で教員がきめ細かく対応し、講義と演習実験がつながる日本型の工学教育を取り入れたいというエジプト側からの強い要請でEJUSTが設立された。

**日本型の教育を取り入れた大学**

「EJUSTへの留学生には周囲の大学の教員たちもいます。自分の研究を深め、よりよい研究を自国でもできるようにしたいと意欲的に学んでいます。EJUSTを支援する日本の大学への短期留学や共同研究なども行われていて、大学教育での日本とアフリカの結びつきはますます強くなっています」と十田さん。

こうした大学で学んだ人材がアフリカ中へと広がり、各地で地に足のついたイノベーションが湧き起こる——そんな未来が見えるようだ。

**ケニア**  
メシャック・ハウイ・オチエンさん

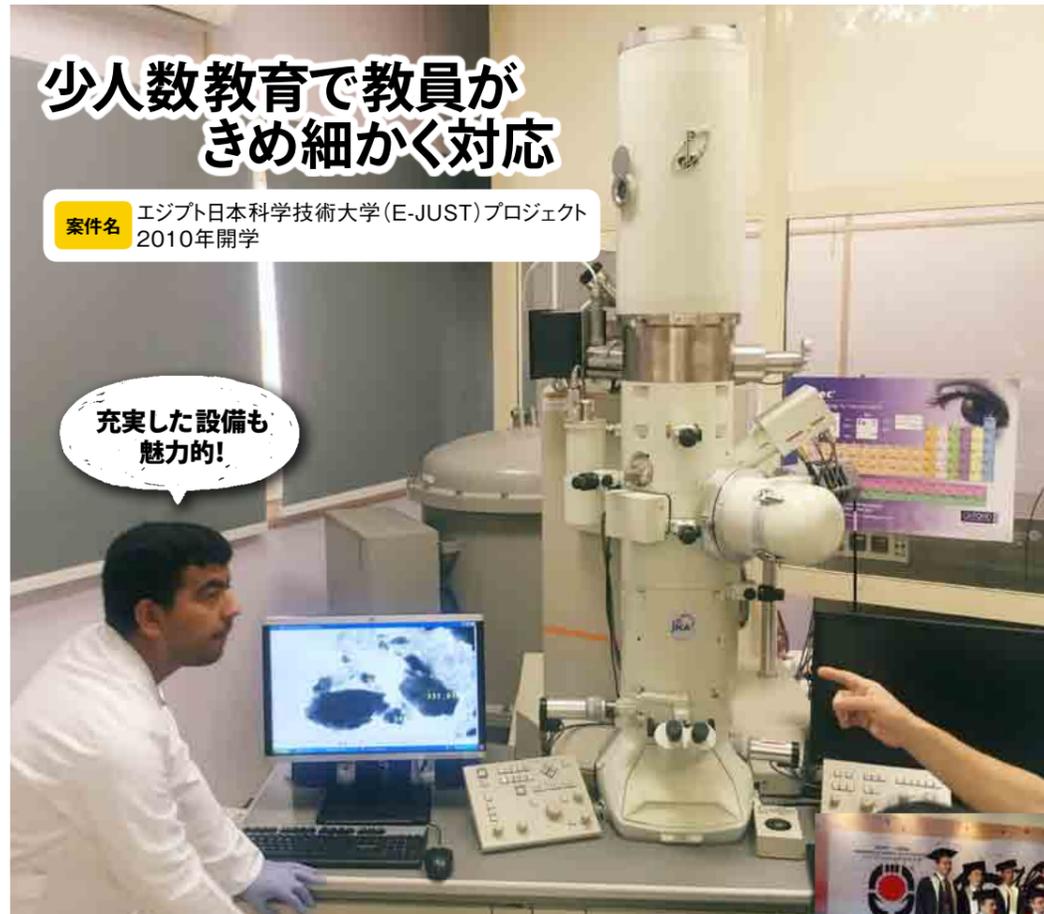
ケニアでは今、食用ではない植物からバイオディーゼル燃料を生産する取り組みが始まっています。それを使った、より環境性能のよいエンジンの開発の研究を行っています。EJUSTは、アフリカ地域の工学系大学のハブであり、日本の大学と連携していて、日本で研修が受けられるのも魅力でした。(2019年1月EJUST博士課程修了)



**少人数教育で教員がきめ細かく対応**

案件名 エジプト日本科学技術大学(EJUST)プロジェクト  
2010年開学

充実した設備も魅力的!



研究のための機材はJICAから提供されたものも多い。

EJUSTの修了式。ここからアフリカ各国へ知識や技術が広がっていく。



大学の入口には、アラビア語、日本語、英語で校名が掲げられている。



医療分野での研究も行っている。ここは実験小動物の解剖実習を行っている研究室。

この部品はどこに使うのかしら?



**日本の専門家が常駐し大学をサポート**

案件名 アフリカ型イノベーション振興・JKUAT/PAU/AUネットワークプロジェクト  
2014年6月～2019年6月  
ジョモケニヤッタ農工大学(JKUAT) ケニア

グループワークでコンピューター制御による自走装置の組み立てを行う。こうした実習はとても人気がある。



ナイジェリア  
ムハンマド・タオヒド・アブドゥルカーンさん  
専門分野は分子生物学とバイオテクノロジーで、とくに微生物と植物の相互作用を研究しています。PAUSTIにはアフリカの最高の頭脳が揃い、各国の研究者が国を超えて共同研究ができるのが魅力です。博士課程修了後は、元の職場である国立バイオテクノロジー開発庁に戻り、PAUSTIで学んだ成果を生かしていきます。(2018年6月PAUSTI博士課程修了)



節水型のトマト栽培を実験するために苗を育てている。

**科学技術イノベーション分野の拠点**

アフリカの人材育成はアフリカで——そうした考え方の下、アフリカ連合委員会(AUC)は汎アフリカ大学(Pan African University: PAU)構想を2008年に立ち上げた。これはアフリカを五つの地域に分け、地域ごとに対象分野、ホスト国、ホスト大学、支援パートナー国を決め、アフリカ全体で大学での研究レベルを底上げし、優秀な人材を育てていくという取り組みだ。

2012年、ケニアの国立ジョモケニヤッタ農工大学(JKUAT)にはPAUの東部拠点として、科学技術イノベーション(STI)分野に特化した大学院大学であるPAUSTIが置かれた。PAUSTIには支援パートナーとして日本が協力している。「理学、工学、農学部を中心に、日本の専門家が常駐し大学をサポートしています。各学部の主要メンバーでチームを組み、STI人材の育成ができる体制を整えました」とプロジェクトを担当するJICA人間開発部の十田麻衣さんは言う。

アフリカ40か国からのべ5000人近い留学生が集まっているPAUSTIで人気の高いのが、ロボット系や農業系の研究。畑で